



発芽期から6月上旬までは、黒星病・黒点病等の重要防除期間となります。黒星病等の一次感染は、開花前後がピークとなります。開花までの期間に低温・降雨の日が続くと越冬病菌からの一次感染が拡大し、結実後の果実感染被害の要因となります。

黒星病・黒点病一次感染予防のため、下記の内容を参考して、発芽 10 日後の薬剤散布を進めてください。尚、不明な点は営農センターまでお問い合わせください。

りんご

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡）

生育ステージ	平年	H23	H24	H25	H26
発芽	4/4	4/13	4/13	4/1	4/3
開花	5/1	5/7	5/1	5/2	5/2 頃

発芽の段階では、昨年より 2 日程度遅れている状況です。開花は昨年並みとなる見込みですが、本年は土壌水分が十分確保されているため、今後の高温等で前倒しになる可能性があります。園地の生育状況を良く見極め、薬剤散布・管理作業を進めましょう。

【発芽 10 日後の薬剤散布】

散布時期：4 月 15～25 日頃 *①、②参照

散布薬剤：水 100 リットル

展着剂	10 ml
-----	-------

トレノックスフロアブル 200ml *③参照

対象病虫害：黒星病・黒点病・（うどんこ病）

10 アール当り散布量： 350 $\frac{\text{リットル}}{\text{アール}}$

【注意事項】 *必ずお読みください。

- ① 収穫中の他作物等への飛散に注意してください。
- ② 低温等により生育が遅れていても、左記の散布時期を目安に遅れずに実施すること。
- ③ 昨年度うどんこ病発生園で、高温乾燥が続く場合はコロナフロアブル 400 倍(4 回以内)を加用する。(発芽 10 日後厳守すること)

◆ 散布日： 月 日

◆ 散布量： リットル

◆ 次回（開花直前）の薬剤散布予定
ふじの開花直前：4/30～5/5 頃

【黒星病の発生生態と生活史】（長野県果樹指導指針より）

① 発生生態

本病菌は被害落葉・芽りん片・枝病斑で越冬するが、量的に重要なのは被害落葉である。被害落葉上では冬期間に偽子のう殻が形成され、早春に成熟し発芽期頃から子のう胞子が飛散して感染が始まる。子のう胞子の感染適温は15～20℃で、この温度での潜伏期間は約10日である。

一次感染は開花前後がピークとなり落花20日後頃まで続き、その後は病斑上に形成された分生孢子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は16～24℃で、分生孢子の発芽適温は15～25℃である。

感染の条件として降雨と密接な関係があり、雨が多い時また葉がぬれている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現われる。

② 生活史

